

# 訪日客400万人はや暗雲

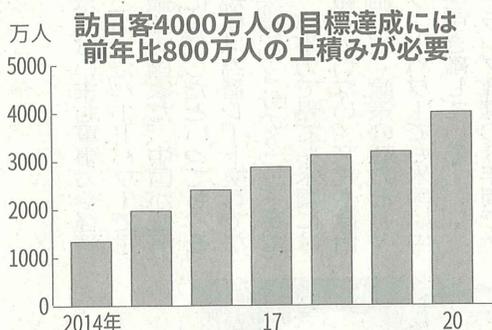
## 今月以降 新型肺炎で中国客激減

2020年に4千万人の訪日外国人客を受け入れるとしてきた政府目標の達成が早くも厳しさを増している。日本政府観光局（JNTO）が19日に発表した1月の訪日客数は前年同月比1・1%減の266万1千人だった。2月以降は新型コロナウイルスの感染拡大によって中国客の激減が避けられない見通しで、厳しいスタートとなった。（一面参照）

### 1月 韓国客減り前年割れ

韓国	31万6800人 (▲59.4%)
中国	92万4800人 (22.6)
全体	266万1000人 (▲1.1)

(注) 日本政府観光局調べ、カッコ内は前年比



(出所) 日本政府観光局

1月の訪日客数が減少した主な要因は19年から続く韓国客の激減だ。前年同月比59・4%減の31万6800人で、19年8月以降は6カ月連続で前年実績の3割強から約5割にとどまる状態が続いている。日本政府の輸出管理強化をきっかけとした日韓関係の悪化の影響が長引いているためだ。

ただ韓国客については最悪の時期は脱したという指摘も出始めていた。一息つくかに見えたところで急速に影響が広がってきたのが新型コロナウイルスだ。19年の訪日客3188万人のうち、中国は959万人、韓国は558万人で、合計する

と全体の5割を占める。韓国客が激減する中で19年の全体の訪日客数が前年比2・2%の伸びを確保できたのは、中国客の増加に支えられたところが大きかった。

中国人客は1月全体で見ると22・6%増の92万4800人と、1月として過去最多を記録した。しかし観光庁によると、1月下旬以降は感染拡大で航空便やクルーズ船の往来が急速に細り、春節（旧正月）休暇中（1月24日～2月2日）の中国人客は前年から約2割減った。2月以降は激減が避けられず、20年は4千万人どころか「19年比で増加を維持することすら難しいかもしれない」と観光幹部との不安の声が早くも出始めた。

中国客は19年の実績で訪日消費全体の4割弱を占めており、地域の観光業や小売業への影響は大きい。政府は当面の緊急

対応として資金繰りのサポートを決めているが、支援策の拡充を求められる可能性もある。

新型コロナウイルスの影響は中国だけにとどまらない。19年の訪日客数で中韓や台湾、香港、米国に次ぐ規模だったタイは日本への渡航自粛を自国民に呼びかけ始めた。日本での感染拡大がその他の東南アジア各国や欧米からの訪日控えにつながれば、訪日客数の一層の下押しにつながる。

4千万人の目標達成には19年の3188万人から25%の上積みが必要で、当初から実現は難しいとみられていた。訪日客が中韓をはじめとした東アジアに偏っていることとのリスクはかねて指摘されており、今回の感染拡大によって顕在化した。欧米や東南アジアからの受け入れ拡大による分散が急務といえそう

だ。